

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 浪速中学校・高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 558-0023
大阪市住吉区山之内 2-13-57

E-mail _____

Website _____

幼児児童生徒数 男子 1686 名 女子 877 名 合計 2563 名
幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「日本の伝統文化を次世代に伝えること」を学校理念として、ESD を伝統文化と国際理解の場と捉え、ESD の実践を通して国際社会に生きる日本人の力の育成を目標とした。

具体的には、神道教育、国際理解、人権教育を柱に、①伝統文化に係わる教育、②国際理解に係わる教育、③人権に係わる学習、④防災に係わる学習を行った。

① 伝統文化に係わる教育

本校は、神道の授業、神道行事を通じて生徒に日本の伝統文化を学び、実践することを目指している。今年度も、週 1 時間の神道の授業で日本古来の神道にまつわる歴史、文化、習俗を学び、日本の伝統文化に対する理解を深めた。また、月に 1 回校内の神社に参拝し、春秋には例祭に参加することで伝統文化の実践に努めた。また、雅楽部、神楽部の活動を通じてクラブ員だけでなく、全校生徒が雅楽や神楽といった日本の伝統文化に接している。

② 国際理解に係わる学習

今年度はエンパワーメント・プログラム、海外語学研修、留学生の派遣と受け入れを通じて、生徒の国際理解を深めた。エンパワーメント・プログラムでは、本校生6人に対しアメリカ人の大学生1人をリーダーとしてグループを作り、日米の学生生活や文化の違い、日本の良いところや悪いところ等をテーマにディスカッションを行い、互いの文化の違いについて学んだ。海外語学研修では、オーストラリアで英語の学習とホームステイを体験した。現地の語学学校では他の国から来た生徒とともに英語を学び、オーストラリア人の家庭に滞在して生活体験とコミュニケーションの実践に取り組んだ。留学生の派遣に関しては、2年生1名が1年間の予定で、アメリカの高校に留学に出発した。受け入れに関しては、アメリカから長期留学生1名、オーストラリアから短期留学生2名を受け入れ、海外の高校生との異文化交流を行っている。

③ 人権に係わる学習

NHKで放映された差別問題に対するあるアメリカ人教師の取り組みに関する番組を視聴し、ワークシートの設問に答えながら、人権や差別について考えさせ、グループで意見交換をしたうえで、各グループでまとめた意見を発表させた。

④ 防災に係わる学習

近年発生した阪神淡路大震災、東日本大震災が被災地にどのような被害をもたらしたのかを生徒に知らせ、2つの震災からどのような教訓が得られるのか考えさせた。また、地震のメカニズムや地震発生時の学校での対応について知るとともに、今後想定される南海、東南海地震に対してどのような備えをするべきか考えさせた。

① の写真 (キャプション)

② の写真 (キャプション)

③ の写真 (キャプション)

④ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

NHKワールドTVスペシャル「青い目、茶色い目」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

日本の伝統文化、異文化理解、人権問題、防災教育を4つの柱として授業、総合的な学習、学校行事の中でESDの目指す教育の実践に取り組む。指導内容については年度初めに指導計画を立てる際に概要を決め、実施時期が近づいてきたら具体的な実施内容を考えている。指導方法に関しては、生徒が学習に取り組みやすいように視聴覚教材、ワークシート等を活用し、グループワークを通して、意見交換をしながら自分の考えをまとめられるようにしているが、指導内容に応じてどのような指導方法がよいのか検討することになっている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

授業、HR、総合的な学習の時間に活動に取り組むことができるように、学年担当者が計画を立て、事前に学年の教員に活動内容を説明し、各教員はそれに基づいて準備を行い、活動に取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動の評価としては、活動内容に関して生徒のアンケートを取り、問題点があれば、次の活動に向けて改善できるようにしている。外部からの評価は受けていないので、外部との交流、評価が今後の課題となる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果は学校のホームページや広報誌に掲載し、学校の内外に発信している。保護者や外部の人に学校の教育内容を知ってもらうことに役立っている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

学校以外の団体との協働、交流はあまりできていないが、提案があった場合には積極的に応じている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

他のユネスコスクールとの交流は有益であるが、現状としては校内での取り組みを実施することが中心で、他校との交流は進んでいない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

生徒は日本の伝統文化、国際交流、人権、防災といった課題に対する認識が深まっている。地域、保護者に対しても学校の教育活動を理解してもらっている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

教育活動の目標として、神道教育、国際理解、人権教育を柱に、伝統文化に係わる教育、国際理解に係わる教育、人権に係わる学習、防災に係わる学習を実施して行く。

- ①伝統文化に関わる教育として、神道の授業、神道行事を実施する。
- ②国際理解に関わる教育として、留学生の受け入れ、海外の学校との交流、海外語学研修、エンパワーメント・プログラムを実施する。
- ③人権に関わる学習として、HR や総合的学習の時間でいじめ、人種差別、部落差別といった問題の学習を実施する。
- ④防災に関わる学習として、HR や総合的学習の時間で災害への対処方法を学び、大阪 880 万防災訓練にも参加する。